

# 生活科

昔の遊び

くりまさる

## ★ 昔の遊びの名人になろう

教材：昔の遊び

ねらい：地域の人々に昔の遊びを教えてもらうことを通して、遊びを楽しむとともに、地域の人々との交流を深める。

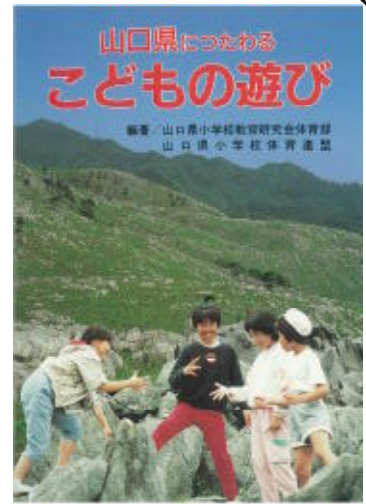
〈学習指導要領：内容（6）（8） に対応〉

### 教材について

日本には、凧あげ・竹馬・竹とんぼ・けん玉・お手玉・はねつき・あやとり・草笛・缶ぼっくり・まりつき・こままわし・だるまおとし・おはじき・ずいずいずっころぼし・かごめかごめ・はないちもんめなど、伝統的な遊びが多くあり、地域にはいろいろな昔の遊びの名人がいる。しかし、今の子どもたちは、昔の遊びにふれる機会が少ないのが現状である。

そこで、子どもたちの祖父母や地域の人々から昔の遊びについてのお話を聞いたり、昔の遊びで使う道具等の作り方を教えてもらったりすることを通して、昔の遊びの面白さを知るとともに、地域の人々との交流を深めることができる。

また、遊びを通して、それぞれの地域の伝統や文化を知ることにもつながり、交流することの楽しさを実感することもできる教材である。



### 展開例

#### 学習の流れ(単元)

- ① 昔の遊びについて知り、友だちと一緒に遊ぶ。
  - ・凧あげ、竹馬、竹とんぼ、けん玉、お手玉、はねつき、あやとり、草笛、缶ぼっくり、まりつき、こままわし、だるまおとし、おはじき、ずいずいずっころぼし、かごめかごめ、はないちもんめ 等
- ② もっと上手になるために、地域の人々に昔の遊びを教えてもらう。
- ③ 園児・保護者・A L Tの先生等に昔の遊びを紹介し、一緒に遊ぶ。

#### 授業づくりのポイント

- ◇ 昔の遊び道具を見せ、その名前を知ったり、手にとって遊んでみたりする。
- ◇ 地域の人々に昔の遊びを教えてもらう。
  - \* 昔の遊びの名人との出会いが「〇〇さんのように上手になりたい」というあこがれの気持ちにつながり、子どもたちの意欲を高めることができる。
- ◇ 園児・保護者・A L Tの先生等に昔の遊びを教える活動を通して、昔の遊びを楽しみながら交流を深めるようにする。

### 教材研究

#### 参考図書例

『山口県につたわるこどもの遊び』  
(平成2年発行 発行所：光文書院)

編著 / 山口県小学校教育研究会体育部  
山口県小学校体育連盟

### 他の取組例

- 地域に伝わる遊び道具の作り方を教えてもらい、自分たちで実際に作ってみる（「おにようず」など）。
- 昔の遊びを教えていただいた地域の人々を「〇〇パーティー」「〇〇小まつり」等に招待して、さらに交流を深める。

★ **くりまさるづくりにちょうせん!**

教材：くりまさる（山口市阿知須地区等）

ねらい：地域の特産品である「くりまさる」を知り、野菜を育てる活動を通して特色ある地域の特産品に関心をもつとともに、地域の人々との交流を深める。

〈学習指導要領：内容（3）（7）（8）に対応〉

**教材について**

くりまさるは、阿知須地区等の代表的な農産物となっているかぼちゃである。くりまさるという名前は、栗より糖度が高いということから名付けられたものであり、その甘さだけでなく、肉厚で煮てもくずれにくいと評判で、市場でも人気がある。

くりまさるを栽培されている生産者の人に土作りや世話の仕方等を教わりながら、植物の日々の成長や変化・実り等から、生命の営みを実感させることができる。また、栽培を通して継続的な交流を行うことで、地域や地域の人々に親しみや愛着、あこがれをもつようになることも期待できる。

くりまさるの苗は、学校でも入手することができるので、学校園等に植えて収穫の喜びを味わうことのできる教材である。



【↑山口市立井関小学校で収穫されたくりまさる】

**展開例**

**学習の流れ(単元)**

- ①地域の特産品「くりまさる」について知る。
  - ・地域の畑を見学
  - ・やさい名人との出会い
  - ・くりまさるという名前の意味
- ②土作りをして、苗を植える。
  - ・土作りや苗植え等で、やさい名人から指導を受ける
- ③育てて観察をする。
  - ・観察カード等
- ④収穫をする。
- ⑤「くりまさるパーティー」を開いて、やさい名人を招待し、感謝の気持ちを伝える。
  - ・(調理例) パンプキンパイ作り
  - ・くりまさるの成長記録の発表
  - ・お礼の手紙 等

**授業づくりのポイント**

- ◇「町たんけん」の時に、地域のくりまさるの畑に注目させる。くりまさるという名前の意味も考えさせるようにする。
- ◇やさい名人には、あらかじめ連絡を取り、学習の趣旨を伝えておく。
- ◇やさい名人には、土作り・苗植えだけでなく育てる際にも時々学校園等を見ていただいて指導を受けるなど、継続的にかかわりをもつようにする。
- ◇「くりまさるパーティー」にやさい名人を招待し、一緒にくりまさるでパンプキンパイを作って食べたり、お礼の手紙等を渡したりして、感謝の気持ちを伝える。
- ◇調理の際には、保護者や学校栄養職員等の協力を得るようにし、安全に十分配慮する。

**教材研究**

山口県内には、「くりまさる」の他にも、それぞれの地域で様々な特産品が栽培されている。生産者との交流という地域に直接かかわる活動を通して、地域や地域の人々のすばらしさに気付かせるとともに、地域に積極的にかかわろうとする気持ちを育てることもできる。

地域の特産物等を学校で栽培できない場合には「教えて やさい名人」等の単元を設定して畑の見学やインタビュー等を行い、「やさい新聞」を作る等の活動も考えられる。

《他地域の特産物例》岩国市：岩国れんこん、周防大島町：みかん、山口市等：はなっこりー  
美祢市：美東ごぼう、下関市：垢田トマト、萩市：萩たまげなす、長門市：ゆずきち 等

**他の取組例**

- 家庭科での、地域の特産品を使った調理実習等
- 社会科での、地域の人々の暮らし・地域の人々の生産の様子等

# 音楽科

まどみちお

山口県民の歌

星野哲郎

## ★「まどみちお」の童謡を歌おう

教材：まどみちおの童謡

ねらい：ふるさと作品を歌う表現活動を通して、童謡の魅力についての体験的理解を深める。

〔学習指導要領：第1・2学年 内容A(1)アイウエに対応〕

### 教材について

「ぞうさん」や「やぎさんゆうびん」、「ふしぎなポケット」など、まどみちお作品は、半世紀以上にわたって多くの子どもたちに童謡として親しまれている。

まどみちお作品は、やさしいまなざしとともに、ユニークな内容から子ども心を自然とひきつける詩に特徴があり、感性や素直な心を育む上で、効果的な教材である。

現在では歌う機会がやや少なくなったと言われる童謡であるが、親しみやすさにおいては昔も今も変わらぬ優れた教材である。山口県周南市出身の「まどみちお」の作品にたっぷりとひたる活動をきっかけとして、全国各地に伝わるさまざまな童謡の楽しさを味わいたい。



〔平成4(1992)年、周南市文化会館  
開館10周年を記念して設置された詩碑〕

### 展開例

#### 学習の流れ

- ①「ぞうさん」を歌う。
- ②「ぞうさん」の歌詞をつくった人について想像したり、歌詞に対する気付きなどを発表したりする。
  - ・まどみちおさんのこと  
山口県出身 周南市の生まれ  
周南市立徳山動物園のまどみちお歌碑
  - ・ぞうさんの詩  
「友だちから鼻が長いとからかわれたら、どんな気持ちがするだろう」
- ③会話風になるように役をつくって歌う。
  - ・役割の交替
- ④まどみちおさんのいろいろな童謡を歌う。
  - ・やぎさんゆうびん
  - ・ふしぎなポケット など

#### 授業づくりのポイント

- ◇誰もが知っている「ぞうさん」の歌詞をつくった人は山口県出身であることを示す。
- ◇「やぎさんゆうびん」や「ふしぎなポケット」を歌う中で、「ぞうさん」以外にも、多くの人から親しまれている曲があることに気付かせる。
- ◇からかわれたぞうさんの気持ちやぞうさんに対する母親の温かい気持ちや言葉が心の支えになっていることに気付かせる。
- ◇ぞうさんの気持ちになって歌ったり、お母さんの気持ちになって歌ったりする。
- ◇クラスを二等分し、子ども役やお母さん役などに分かれて歌ったり、二人組で役割分担して歌ったりする。
- ◇親しみやすい童謡が数多くあることに気付かせ、次時の学習につなげる。

### 教材研究

- 童謡には児童にとって親しみやすい要素が数多く隠れている。覚えやすい・分かりやすい・遊ぶことができるなど、何度も繰り返して歌いたくなる不思議な魅力がある。歌に親しむ中で自然と音程感覚を身に付けたり、言葉のおもしろさに気付いたりすることができる童謡を数多く歌うことによって、音楽が好きになるきっかけにしていきたいものである。
- その他参考となる童謡の数々(親子で歌いごう 日本の歌百選から)
  - ・あめふりくまのこ ・うみ ・しゃぼん玉 など
- 夢チャレンジきりり山口人物伝Vol.4 (財)山口県ひとつづくり財団

### 他の取組例

- 幼稚園や保育所との交流活動の中で、園児に歌を聴いてもらったり一緒に歌ったりする。
- さまざまな童謡に触れる機会をつくり、歌えるレパートリーを増やす。
- 童謡から古くから伝わるわらべうたへと対象曲を広げ、音楽経験を豊かにする。



## ★ 「山口県民の歌」を歌おう

教材：山口県民の歌

ねらい：県民歌を歌う表現活動を通して、郷土についての体験的理解を深める。

〈学習指導要領：第3・4学年 内容A(1)アイウエに対応〉

### 教材について

50年前の国体を盛り上げるために、県民によって各地で歌われた「山口県民の歌」は、「錦帯橋はうららかに…」の歌詞で始まり、山口県の歴史や名所を荘重かつ勇壮に表現しながら郷土の躍進を願うすばらしい歌となっている。

この「山口県民の歌」は、詞は詩人の佐藤春夫（さとう はるお）さん、曲は作曲家の信時潔（のぶとき きよし）さんによるもので、昭和37年（1962年）に県政施行90周年記念事業の一環として制定された。

制定の翌昭和38年（1963年）に開催された山口国体会場においては、声高らかに歌われ、昭和40年（1965年）には当県出身の歌手・三鷹淳（みたか じゅん）さんと真理ヨシコ（まり よしこ）さんによるレコードも発売されており、平成21年に各学校に配付されたCD「おいでませ！山口国体・山口大会ソング集」にも収録されている。また、県庁1階の情報公開センターで、いつでも試聴が可能である。

ふるさと山口で歌われた「山口県民の歌」を、学校においても味わうことができるような教材のひとつとして、紹介したい。



### 展開例

#### 学習の流れ

- ① 「山口県民の歌」を聴く。
- ② 「山口県民の歌」の歌詞や曲がつけられた理由やテーマなどについて想像したり、歌詞に対する気付きを発表したりする。
  - ・山口県の歴史・自然
    - 錦帯橋
    - 秋吉台・秋芳洞
    - 明治維新
    - 大内氏・毛利氏
    - 瀬戸内海・日本海
- ③ 歌詞の内容を思い浮かべて歌う。
  - ・山口県のよさを誇りに思う気持ち
  - ・響きのある豊かな声と堂々とした歌い方
- ④ 山口県ならではの歌詞について感想や気付きを話し合う。
  - ・山口県のすばらしい歴史と自然
  - ・大切にしたい美しい緑と海

#### 授業づくりのポイント

- ◇ 岩国の錦帯橋から始まる歌詞を声に出して読んだり、繰り返して聴いたりしながら、旋律に親しめるようにする。
- ◇ 歌詞には、他県にはない山口県ならではの歴史や自然がよさとして盛り込まれていることに気付かせる。
- ◇ 山口県の歴史や自然を思い浮かべながら、誇りをもって歌えるようにする。
- ◇ 一つ一つの歌詞の言葉の意味を確かめながら、詞に表現されている内容を深く味わうように歌う。
- ◇ グループで歌ったり、全員で歌ったり、一人で歌ったりしながら、自信をもって堂々と歌えるようにする。
- ◇ 山口県の歴史や自然について、調べてみたいことなど関心のあることを取り上げ、次時の学習や他の教科の学習などにつなげる。

「山口県民の歌」には山口県に住んでいる人々にとって誇れる内容が数多く取り入れられている。山口県には、いつまでも長く受け継いでいきたい人々の心や自然の豊かさなど、ふるさとを離れていても大切にしていきたい宝物が豊富にあることから、「山口県民の歌」を歌いつつ、平成23年度に開催される国体をきっかけに、県民のふるさと意識の高揚が期待されている。

### 山口県民の歌

佐藤春夫 作詞  
信時 潔 作曲

力強く ♩ = 約 104

1. きんたいきょうはうららかに  
2. すおつあのなうどにいうららかに  
3. ふたつのなうどにいうららかに

あつきよしのだおはさもやかりならりが  
ちちうしのだおはさもやかりならりが  
しゅうよにれいささのかくちえべにのいあてんとねいめで  
いでしんとのはいなつぎぬきふせんるかのちのーほこ  
りりとしめいいーわすすーれめめやや  
りりとしめいいーわすすーれめめやや

ややまぐちちけんこのわられらみな  
やまぐちちけんこのわられらみな

### 山口県民の歌

作詞 佐藤 春夫  
作曲 信時 潔

- 一、錦帯橋はうららかに  
秋吉台はさやかなり  
秀麗の地に偉人出で  
維新の偉業成せるかな  
誇りと使命忘れめや  
山口県の我らみな
- 二、周芳穴戸のいにしえを  
つぎし大内毛利らが  
代々の栄えの跡とめて  
伝統永き文化の地  
誇りと使命忘れめや  
山口県の我らみな
- 三、二つの海に海の幸  
地中の宝 山の富  
世に捧ぐべき天然の  
資源は尽きぬふるさとの  
誇りと使命忘れめや  
山口県の我らみな

※音源や楽譜、伴奏譜は「おいでませ！山口国体」のホームページからダウンロードできる。

### 他の取組例

- 身近な地域学習から郷土学習・ふるさとやまぐち学習へと広げていく。
- 「山口県民の歌」の内容に注目するとともに、校歌や国歌の歌い方を見直す。
- 「山口県民の歌」から他県の歌や日本の歌・世界の歌に対象を広げ、音楽経験を豊かにする。
- 学校放送のBGMとしての活用し、ふるさとの歌に親しめる環境づくりを行う。

## ★ 星野哲郎作品を手掛かりとして

教材：星野哲郎

ねらい：五音音階で作曲された星野哲郎作品の特徴を手掛かりとして、五つの音を用いた旋律の創作についての体験的理解を深める。

〈学習指導要領：第1学年 内容A(3)アに対応〉

### 教材について

美空ひばりをはじめ、北島三郎、水前寺清子、小林旭、都はるみなど著名な演歌歌手の歌う作品を数多く手がけた星野哲郎は、山口県出身の作詞家である。

星野哲郎は、大正14年に大島郡に生まれ、美しい自然に恵まれた大島で育ち、情緒あふれる人間味豊かな表現力で多くの歌詞を残した。日本を代表する作詞家でもあり、生まれ故郷である大島では星野哲郎記念館が完成するなど、その功績が大きく讃えられている。星野哲郎は、演歌だけではなく、ふるさと大島を題材にした「周防大島音頭」「東和町の歌」「橘音頭」や島内の校歌も数多く手がけている。

長年、大衆に広く親しまれた氏の作品をぜひ味わってみたいものであるが、これらの歌詞につけられた旋律は日本の音楽の特徴である五音音階を用いたものが多いことから、5つの音による旋律の創作に関心を向けたい。

五音音階の一部である「ソ・ラ・ド」と「レ・ミ・ソ」を即興的に組み合わせるだけでも、和風の旋律ができることから、旋律創作の導入としても効果的である。



### 展開例

#### 学習の流れ

- ① 「星野哲郎作品」を聴く。
- ② 「星野哲郎作品」に共通するテーマや歌詞の特徴などについて話し合ったり、気づきや感想を発表したりする。
  - ・美空ひばり、北島三郎、水前寺清子、小林旭、都はるみなどによる演歌や「周防大島音頭」「東和町の歌」「橘音頭」などに共通する旋律の特徴
- ③ それぞれの旋律に共通する音に着目し、旋律の特徴を調べる。
  - ・四七抜き音階「ド・レ・ミ・ソ・ラ」
- ④ 五音をもとにした4小節の旋律をつくる。
  - ・「ソ・ラ・ド」「レ・ミ・ソ」などの組合せによる旋律創作

#### 授業づくりのポイント

- ◇山口県出身である「星野哲郎作品」の歌詞を声に出して読んだり、聴いたりする。
- ◇歌詞には、ふるさと大島で育った自然に対する思いや願いがメッセージとして盛り込まれていることに気付かせる。
- ◇山口県で生まれ育った氏の姿を思い浮かべながら鑑賞するようにする。
- ◇調べたい曲をグループで選び、旋律の特徴を発表できるようにする。
- ◇五つの音を用いた旋律の創作に関心をもち、させるようにし、陽旋法や陰旋法の特徴にも着目させ、民謡風な音楽が即興的に作り出せることから意欲付けを図る。
- ◇旋律の特徴について、調べてみたいことなど関心のあることを取り上げ、次時の学習につなげる。



## 教材研究

星野哲郎の創作した作品は4,000を超えており、数々のヒット作を世に送り出してきた。「星野哲郎作品」には、いつまでも長く受け継いでいきたい人々の心、自然の豊かさなど、山口県に住んでいる人々にとって誇れる内容が数多く盛り込まれている。

それぞれの作品が五音音階等日本ならではの音階による旋律が多く使われていることから、生徒の夢や憧れを育む地域教材「星野哲郎作品」として活用が期待される。

数々の名作を残した氏の作品には、どのような特徴・共通点があるのか。旋律の特徴などを手掛かりに探っていくことが大切である。

### 【五音音階について】

一般に、四七抜き音階と呼ばれる「五音音階」とは、ドレミファソラシドの4番目と7番目のファとシを除いた音階をさすものである。

ファとシを除いた「ドレミソラ」は、「ソラド」と「レミソ」の3音による音列を組み合わせた音階と考えれば、その特徴は下の楽譜のように、それぞれ長二度と短三度の3音の組合せからなることが分かる。

このような長二度と短三度の3音の組合せは、この他にも「ドレファ」と「ソラド」の組合せなどがあるが、ここでは臨時記号を用いた音列については省略する。

#### 譜例1 主音は、ソまたはド



#### 譜例2 主音は、ドまたはファ



また、次の楽譜のように、長三度と短二度の三音で音列をつくると、沖縄風になる。

#### 譜例3 主音は、ドまたはファ（琉球音階）



五音音階の仕組みは、3音の音列の組合せによるもので、これらの他にも短二度と長三度、短三度と長二度の組合せによる音列があり、それぞれ音列の特徴には個性的なものがあり、即興的に演奏しても、東洋的な旋律が作り出せる。

### 【補足】

3音による音列の組合せによる音階が東洋的であるのに対し、譜例1左に「シ」、譜例1右に「ファ」の音を加えると、下の楽譜のように、ドレミファとソラシドの組合せによる西洋音階になる。



○夢チャレンジきらり山口人物伝Vol. 3 (財) 山口県ひとづくり財団

## 他の取組例

○郷土出身者による作品の鑑賞を通して、郷土学習・ふるさとやまぐち学習へと広がっていく。

○「星野哲郎作品」の旋律の特徴に注目するとともに、既習曲の旋律を見直す。

○「星野哲郎作品」を手掛かりに、他の作品や他者の作品に関心を広げ、音楽経験を豊かにする。

○5つの音による創作から、7つの音による創作、12音による創作へと発展的に扱うこともできる。

# 図画工作科 美術科

おにようず

香月泰男

雪舟

★ 成長への願いをこめて！～おにようず～

教材：おにようず

ねらい：おにようずや雛人形、こいのぼりなどのデザインの特徴を話し合うことを通して、子どもの成長への願いを込めてつくられているものがあることに気付く。

〈学習指導要領：B鑑賞（1）ア 身近な美術作品を鑑賞して、よさや面白さを感じ取る に対応〉

教材について

見島凧は、「おにようず」と呼ばれる。萩市見島では「子どもが元気で、おにようずのように大きく成長しますように。」という願いを込めて親戚一同が集まって「おにようず」をつくる。

子どもたちの成長への願いを込めたものには、雛人形や五月人形、こいのぼりなどもある。見島の人々がおにようずに込める願いを想像しながら、これらを鑑賞する活動を通して、子どもたちに、人々の願いが形になった造形物の存在に気付かせることができる。



展開例

学習の流れ

- ①おにようずは、島の人々が子どもの成長への願いを込めてつくるものであることを知る。
- ②子どもの成長への願いの表れとして、雛人形やこいのぼりなどもあることに気付く。
- ③おにようずのデザインの特徴と、雛人形、こいのぼりなどのデザインの特徴を比べながら、人々の願いが、どのような形となって表現されているのか考え話し合う。
- ④気付いたことを基にもう一度鑑賞する。

授業づくりのポイント

- ◇大きな紙を準備するなどして、凧の大きさが実感できるようにする。
- ◇とても大きいこと、力強い鬼の絵、空高くあげる凧であること等が、元気に大きく成長してほしいという願いに結び付いていることに気付くことができるようにする。
- ◇雛人形の装飾や、空高くあげるこいのぼりなど、デザインだけでなく、使われ方にも着目できるようにすることで特徴をとらえ、成長への願いが形に表されていることに気付くことができるようにする。

教材研究

- ・手づくり体験教室「おにようず」づくり。（萩市）
- ・全国凧あげ大会 in見島（見島観光協会）
- ・[雛祭り][端午の節句]  
豪華な衣装の人形や、鎧兜や武者人形などを飾る行事。災厄よけやお守りの意味があり、いずれも子どもたちの健やかな成長を願う意味がある。

他の取組例

- 低学年の場合、参観日などを利用して、凧あげ大会を開催する。まず、親子で組んで、願いを込めて絵を工夫し、大きな凧をつくる。それぞれの願いを発表し合い、鑑賞会を開いた後に凧揚げ大会をし、体育館等に展示する。
- 高学年の場合、おにようずについて鑑賞した後に、全国では、他にどのようなものがあるか調べて、絵の入ったプレゼンテーションの資料をつくり、グループごとに発表し合う。

## ★ 香月泰男さんの心を想像しよう

教材：香月泰男

ねらい：香月泰男の作品を見たり、生き方や考え方を知ったりすることを通して、香月泰男の画家としての姿勢の素晴らしさに気付く。

〈学習指導要領：B鑑賞（1）ア 我が国の親しみのある美術作品 に対応〉

### 教材について

香月泰男は、シベリアから帰ってきてからも絵画の創作活動を長門市三隅の自宅で行っていた。題材も身近なところから得ていたが、そんな香月泰男にとって、シベリアシリーズは、戦争体験を基にした、避けては通れない題材であった。ふるさと三隅を愛し、ごく身近な物や自然に愛着を感じていた画家が、なぜシベリアシリーズを描いたのか。戦争体験から、どのようなことを思い、画家としてどのような姿勢を貫いたのか。香月泰男の残した言葉や絵画の作品鑑賞から心の中を想像させることによって、画家としての姿勢の素晴らしさに気付かせることができる。



### 展開例

#### 学習の流れ

- ①シベリアシリーズを描く香月泰男が考えたことについて、想像し発表する。
- ②戦争に行く前と後で、作風が違うことについて、理由を想像し話し合う。
- ③香月泰男の素晴らしい点は、どんなところか考え、発表し合う。
- ④互いの考えを聞いて、参考になったことなどから自分の考えをまとめる。

#### 授業づくりのポイント

- ◇シベリアシリーズの作品を見て、感じたことを発表し合う場を設定することによって、絵から受ける印象を大切にする。
- ◇出征前の作品とシベリアシリーズを比較して見せることにより、作風の違いを考え、発表することができるようにする。
- ◇香月泰男の言葉や様々な出来事を紹介することにより、様々なよさに気付くことができるようにする。

### 教材研究

- ・香月泰男美術館 香月家から寄贈された絵画や遺品などの資料を公開。企画展示によって様々なシリーズの作品を鑑賞できる。
- ・山口県立美術館 シベリアシリーズを展示。過去に開催された香月泰男展の展覧会図録等もある。
- ・長門市立明倫小学校 香月泰男の母校。泰男の描いた壁画がある。
- ・香月ロード 香月泰男が廃品を利用して作ったおもちゃからデザインしたオブジェを配置した遊歩道。
- ・夢チャレンジきらり山口人物伝 Vol.3（財）山口県ひとづくり財団  
その他、多数の文献がある。

### 他の取組例

- 香月泰男がシベリア抑留中に絵の具箱の蓋の裏にメモした、「月」「憩」「雨」「朝」などの言葉をもとに絵を描いて鑑賞し合う。
- 香月泰男について、事前に書籍やインターネットなどで調べ、自分なりの考えをもった後に香月泰男美術館や山口県立美術館で作品を鑑賞する。
- 香月泰男美術館の方の話聞き、感想を発表し合う。



★ 四季山水図巻を通して雪舟の偉大さにふれよう

教材：雪舟

ねらい：「四季山水図巻」を鑑賞することで、独自の表現を追究した雪舟の表現の巧みさや作品に込められた思いを味わう。

〈学習指導要領：B鑑賞（1）ウ 美術文化の継承 に対応〉

教材について

雪舟は、中国に渡り、モノクロームの表現や余白の生かし方など、その表現に学んだ。その結果、たどり着いたのは雪舟独自の表現であった。表面的な技巧の習得のみに終始するのではなく、精神性までも感じさせる雪舟の水墨画や、画家としての素晴らしさに気付かせ、国宝としての価値を認められた理由を考えさせる。水墨画のよさにふれるだけでなく、自分たちの国の美術文化についても考えを深める機会になる。



牧牛図（牧童）

展開例

学習の流れ

- ① 作品から四季を読み取る。
- ② 雪舟が生涯を通じて、どこで、どのような活動をしていたかを知る。
- ③ 「四季山水図巻」で雪舟が表現したかったことについて考える。
- ④ 雪舟が日本の水墨画に与えた影響について知る。

授業づくりのポイント

- ◇ 描かれているものに注目させることにより、四季の表情を味わうことができるようにする。
- ◇ 画面の構成や省略の表現に着目させることで、余白の生かし方に気付くことができるようにする。
- ◇ 国宝に指定された理由を考えることで、雪舟が創り出した技巧や表現の素晴らしさに気付くことができるようにする。

教材研究

- ・ 毛利博物館 「四季山水図巻（山水長巻）落款」を収蔵。
- ・ 山口県立美術館 「牧牛図」等の作品を収蔵。
- ・ 「みる・しる・しらべるコレクション 雪舟筆 牧牛図」 山口県立美術館 編集  
対話を中心として、生徒の気付きを大切に、生徒の側から鑑賞活動を進める方法について、分かりやすく詳細に解説。
- ・ 雪舟庭園（山口市宮野）  
雪舟が大内政弘の依頼により別荘の庭として築庭したと伝えられている。

他の取組例

- 雪舟の作品を鑑賞した後に生徒自身が水墨画を描き、描く中で気付いたことを基に、もう一度、雪舟の作品を鑑賞する。
- 雪舟の水墨画に影響を受けた画家の作品と比べて見ることにより、雪舟が多くの画家に影響を与えていることを知り、雪舟の偉大さを感じ取る。

# 家庭科 技術・家庭科

はなっこりー

打ち出し板金

★ ゆでてみよう、いためてみよう ～はなっこりー～

教材：はなっこりー

ねらい：はなっこりーをゆでたり、いためたりする調理を通して、ゆでる、いためる調理ができるようになるとともに、加熱による野菜の変化を知り、地元産の野菜に興味、関心をもつ。

〈学習指導要領：内容B（3）ウ に対応〉

教材について

はなっこりーは、旧山口県農業試験場で開発された山口県オリジナルの野菜である。平成11年に品種登録されて以来、県内を中心に東京、大阪、岡山、広島、福岡にも出荷されており、スーパーなどでもよく見かける。CMソングが話題になったこともあり、県内の児童にとって親しみのある野菜である。花も花茎も食べられ、柔らかく甘みがあって歯切れがよく小学生にも扱いやすいので、ゆでたりいためたりする調理の材料として適している。また、ビタミンが豊富で、五大栄養素の働きや3つの食品群の学習につなげることもできる。



展開例

学習の流れ

- ① 「はなっこりー」の開発について話を聞き、野菜の調理に興味をもつ。
- ② 生の状態、ゆでた状態、いためた状態のものを比較する。（色、かさ、重量等）
- ③ 野菜のゆで方、いため方を知る。
- ④ 「はなっこりー」のサラダと油いためをつくり、試食して歯ざわりや味を比較する。

授業づくりのポイント

- ◇ 「はなっこりー」について、児童がこれまでに知っていることを出し合い、興味をもって野菜の調理や栄養等についての学習ができるよう意欲をもたせる。
- ◇ はなっこりーは、加熱によるかさの変化が少ない特徴があるため、キャベツ等の例も示すとよい。
- ◇ 湯は沸騰してから、油は十分加熱してから野菜を入れること等を理解させる。
- ◇ この後、はなっこりー以外の野菜への応用、食品の組み合わせの学習、消費生活と環境の学習への関連付けなど、様々な展開の工夫が考えられる。

教材研究

- ・「はなっこりー」は、中国野菜のサイシン（ハクサイの仲間）とブロッコリーをかけあわせてつくられた。ナタネ、キャベツ、ハクサイなど、95通りの組み合わせが試みられ、数万の個体の中から選ばれた。
- ・ビタミンC、食物繊維が豊富。ゆですぎると柔らかくなりすぎるのでさっと、ゆでたり、いためたりするとよい。県内各地で栽培されており、9月から5月までが収穫期。
- ・山口県農林総合技術センター（旧山口県農業試験場）  
〒753-0214 山口市大内御堀1419 Tel:083-927-0211
- ・まるごと！キャラクターは「はなっこりん」



はなっこりん

他の取組例

- ・はなっこりーの開発ストーリーを調べる。（総合的な学習の時間、社会科等）
- ・地産・地消について調べることで、「D 消費生活と環境」の内容と関連付けることもできる。
- ・特別な品種でなくても、地域でとれた野菜（キャベツ、ニンジン、ホウレンソウなど）を取り上げることで、地産・地消に興味をもたせることが可能。
- ・参考URL：まるごと！やまぐちnet. <http://www.marugoto-y.net/>



★ 工作機械と手作業による加工を比較しよう～打ち出し板金～

教材：新幹線の車両製造技術

ねらい：山口県の産業「匠の技～打ち出し板金～」を知ること、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用する態度を育成する。

〈学習指導要領：A（2）ウに対応〉

教材について

日本の技術の象徴として世界に知られるとともに、台湾やイギリスへの輸出も進んでいる新幹線は、その主たる区間を200キロメートル毎時以上の高速度で走行するとともに、安全面や乗り心地、騒音対策の面等においても高水準を誇っている。



このように、様々な先端技術が使用されているにもかかわらず、先頭車両の製作には熟練技能者による成形（手動加工機と手仕事の打ち出しの併用）が最適とされており、この成形を行っている会社が、下松市にある。

技術・家庭科(技術分野)の「A材料と加工に関する技術」では、「(2)材料と加工法について、ア材料の特徴と利用方法を知ること。イ材料に適した加工法を知り工具や機器を安全に使用できること。ウ材料と加工に関する技術の適切な評価・活用について考えること。」について指導をする必要がある。ここでウの指導事項を中心に進めるにあたって、このような地域の特色ある産業を通して指導することは、生徒の意欲を喚起するために有効である。また、工業製品の製造の機械化が進んでいる現在、熟練技能者による成形を行っている現状を分析させることは、よりよい社会を築くために技術を適切に評価し活用する能力を育成することにもつながる。

展開例

学習の流れ

- ①新幹線を造る材料を調べる。
- ②新幹線の先端部分の成形が手作業で行われていることを知り、その理由を話し合う。  
【グループ協議】  
「なぜ、新幹線の先頭車両は製作機械による加工ではない部分があるのか考えてみよう。」仮説→検証
- ③新幹線の先端部の加工が打ち出し板金で行われている理由をまとめる。

授業づくりのポイント

- ◇山口県で新幹線が製作されていることにふれるとともに、新幹線模型もしくは写真映像等を用意し意欲を喚起する。
- ◇製作機械による加工ではない部分があることを明示して仮説を設定させる。
- ◇山下工業所での打ち出し板金の動画を見せること等により仮説の検証を進め、加工法について比較検討させる。
- ◇打ち出し板金技術が優れている点をまとめさせる。

教材研究

- (株)山下工業所  
所在地 〒744-0002 下松市東海岸通り1番27 5 0833-41-3333  
<http://www.yamashita-kogyosho.com>
- ・第2回ものづくり日本大賞経済産業大臣特別賞
- ・最近、アルミ製のチェロの製作などでも高い評価を得ている。
- ・山下工業所では、打ち出し板金技能への興味・関心を高めるため、打ち出し板金による楽器を持参して出前講演を実施している。



他の取組例

- 小学校5年生社会「新幹線を例に日本の工業についてまとめよう」
- 中学校技術・家庭科(技術分野)A（1）ア、イの指導事項



# 体育科 保健体育科

秋吉台山焼き 他

貞永信義

★ 題材名 私たちの山口県～やまぐちCMをつくろう～

教材：秋吉台の山焼き、壇ノ浦の合戦 等

ねらい：山口県の自然・文化・歴史・産業などから、表したいイメージをとらえ、「はじめ - なか - おわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きにして身体で表現することができる。

〈学習指導要領：第5学年及び6学年 F表現運動 ア表現 に対応〉

教材について

表現は、友達とかかわり合いながらその題材になりきって踊ることが楽しい運動である。そこで「私たちの山口県～やまぐちCMをつくろう～」という単元名で、身近な山口県の自然・文化・歴史・産業の中から表現する題材を選ぶことは、意欲の喚起を図ることができるとともに、表したいイメージを明確にとらえやすく、身体による多様な表現活動（踊り）につながることを期待できる。なお、題材の選定にあたっては、「はじめ - なか - おわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きによる身体表現（踊り）が可能になるように、「秋吉台の山焼き」や「壇ノ浦の合戦」などの静と動の両面を含んだ題材を選ばせることがポイントとなる。



山口県には海と山の多彩な自然、豊かな文化と歴史、農業・水産業・工業など幅広い産業があることから、題材は豊富にあり、身体表現（踊り）によるやまぐちCMの作成は、郷土への理解を深め愛着を強めることにもつながる。

展開例

学習の流れ（単元）

- ①オリエンテーション（イメージづくり）
- ②やまぐちCMの題材のイメージを、友達とかかわり合いながらひと流れの動きにして即興で踊る。（3時間）
- ③グループでやまぐちCMの題材を決め、ひとまとまりの動きにして踊る。（3時間）
- ④CM発表会をする。

授業づくりのポイント

- ◇他教科での学習を生かし、やまぐちCMの題材を考え、その特徴をイメージさせる。
- ◇友達同士で動きを見せ合い、より多くの動きをストックさせる。
- ◇選択した題材で最も強調したい場面を中心に、はじめとおわりをつけさせる。
- ◇②でストックした動きをもとに、リズムや人数を変えたり、繰り返したり、動きの大小をつけたりして、題材のイメージが伝わりやすいように工夫させる。
- ◇グループ同士で見合ったり、題材の画像や映像を確認したりして、動きを高めさせる。

教材研究（静と動がイメージしやすいもの）

【秋吉台の山焼き】



秋吉台の山焼きは、毎年2月第3日曜日に行われ、草原1,500haを焼き尽くす大規模なもので、全国的にも有名な行事である。サイレンを合図に一齐に火が放たれると、草原を炎が駆け巡る。燃え上がる炎は、5mにも達する。山焼きの後、草原は真っ黒な大地に変わるが、そこから「センボンヤリ」や「ベニヤタケ」などの新芽が芽吹き、秋吉台は緑の春を迎える。

「枯れ草が広がる草原」、「一気に燃え上がり5mにも達する炎」「草原を燃やし尽くし、小さくなっていく炎」「新芽の芽吹きを待つ草原」などを一連の流れにして表現してみたい。

### 【竜宮の潮吹き】



向津具半島の日本海に面している一帯は、玄武岩が露出し、水面下に洞窟を形成するなど変化に富んだ地形である。この地形に打ち寄せる日本海の荒波が、時に音を立てて30mも吹き上げる。遠くからこの様子を眺めると、竜が天に向かって昇るように見えることから竜宮の潮吹きと呼ばれている。潮吹きによって飛び散るしぶきは、太陽を反射しきらきらと銀の砂をまいたようで美しい。

「打ち寄せる波」「波の勢いをため一気に吹き上がる潮」「太陽を反射して美しく光るしぶき」などを表現してみたい。

### 【SLやまぐち号】

昭和54年8月にJR山口線に復活した蒸気機関車（C571）で、その車体の美しさから「貴婦人」とも呼ばれている。山口線（新山口～津和野間）は、勾配が続くことから蒸気機関車の力強さが一層際立つ。

「静かに発車を待つ様子」「発車して徐々に加速していく様子」「きつい勾配を力強く走っている様子」「力を出し切って終着駅に到着する様子」などを一連の流れにして表現してみたい。



### 【おにようず】



萩市の見島に古くから（平安時代からという説もある）伝わるもので、鬼の顔が描かれている。「ようず」とは凧のことである。見島では、子どもの成長を祈って、年の暮れに親戚が集まり昼5～6畳分もある大凧を作成して、正月に揚げる。

「鬼の顔が描かれ、凧に魂が吹き込まれる様子」、「静かに大空に舞い上がる瞬間を待っている凧」、「多くの人に引かれ、風をはらんで一気に舞い上がっていく凧」、「風を受け悠々と大空を舞う凧」などを一連の流れにして表現してみたい。

### その他、取り上げられそうな題材



（防府市）防府天満宮 裸坊祭



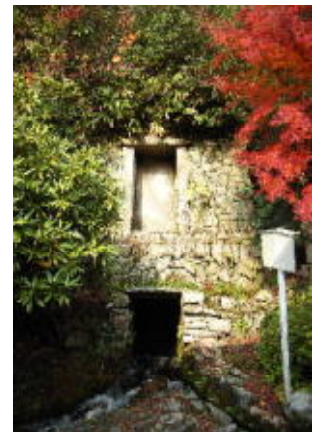
（周南市）貴船祭



（周南市）石油化学コンビナート



（光市）クサフグの産卵



（周南市）潮音洞

（周南市）ナベツルの飛来 （山口市）佐波川の堰の大木運搬 （下関市）壇ノ浦の合戦  
（萩市）和船競漕「おしくらごう」 など



★ 郷土のオリンピック選手の速さを体験！！～貞信義～

～貞永さんの速さに挑戦するための方法を見つけよう。～

教材：貞信義

ねらい：ローマオリンピックマラソン競技日本代表選手である貞信義の記録から、走る速度を分析し、自分に合った距離や走り方、練習方法を考え、貞信義の速さに挑戦する。

〈中学校学習指導要領解説：C陸上競技〔第3学年〕1技能(2)長距離走 に対応〉

教材について

長距離走で求められる技能として、自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようになることがある。

「自己に適したペースを維持して走る」とは、目標タイムを達成するペース配分を自己の技能・体力の程度に合わせて設定し、そのペースに応じたスピードを維持して走ることである。

中学生のトップアスリートは1kmを2分50秒前後で走るが、授業で郷土のマラソンランナー貞信義を教材にして取り組むことは、記録のすばらしさを知るだけでなく、郷土のマラソン振興へ尽力する姿を知り、郷土愛を育むとともに、生涯にわたって運動に親しむことのすばらしさや大切さを学ぶことにもつながる。

授業では、貞信義の記録を1kmや200mトラック1周に換算し、授業で扱う1000m走や3000m走等の目標設定の参考とさせたり、貞信義の記録に挑戦させることでその記録の偉大さを実感させたりすることが考えられる。



展開例

学習の流れ（単元）

- ①オリエンテーション
  - ・貞信義について知る。
  - ・ローマオリンピックのタイムを200mトラックに換算してみる。
- ②200m走で、貞信義の速さを体験し、挑戦の仕方を考えてグループをつくる。
- ③グループで挑戦の仕方を考え、工夫しながら練習する。（3時間）
- ④各グループの取組と成果について発表し合う。



授業づくりのポイント

- ◇「貞信義」をキーワードに、インターネット等で調べ、発表し合う。
- ◇貞信義のオリンピック等のマラソンのタイムを200mのタイムに換算させ、そのタイムを長距離走の練習に活かす方法を考えさせる。
- ◇200mトラック1周45秒という記録を、どのように活動に取り入れるか考えさせ、同じ目的をもつ生徒同士でグループを作らせる。
- ◇グループ毎に考えた方法で練習する。
  - ・1周45秒で何周継続して走ることができるか挑戦する。
  - ・1周45秒で400m～1500mを走る。
  - ・2人1組で交互に走り速さを体感する。
- ◇各グループの練習方法の工夫や感想、その練習によってめざす成果等を発表させる。



## 教材研究

貞永信義（さだなが・のぶよし）1929～2003年。ローマオリンピック（1960年）マラソン日本代表選手。防府市出身（右田中学校卒業）。

成人式の駅伝大会1区でたすきを渡す直前に抜かれ2位になったことが悔しくて走ることを始めた貞永は、農家の息子で、父親からは「走っていたら、飯は食えんぞ。」と止められたが、仕事の後、毎晩5千～1万m走っていたそうである。

1950年「鐘紡」に入社し、1957年の別府毎日マラソンで初優勝。念願のローマオリンピックでは、2時間35分11秒で完走している。

「防府読売マラソン」は1970年から、貞永を顕彰する思いを込めて開催されている。貞永自身も第1回～第3回大会では10kmの部に出場して優勝しており、高校生と競り合う鉄人ぶりを発揮するとともに、大会振興にも尽力してきた。

また、貞永は監督としても伊藤国光（鐘紡）等を育て、メキシコオリンピックではコーチを務めるなど活躍している。

貞永は、生涯でマラソンを74回完走して、6度の優勝を果たし、現役引退後も、地球から月までの距離約38万キロを目標に走り続けたが、2003年、74歳で死去している。

- ①1960年第17回ローマオリンピックマラソン競技  
・記録2時間35分11秒（当時31歳）

1 k m	約3分40秒	200mトラック1周	約44秒
-------	--------	------------	------

- ②1970年第1回防府読売マラソン10kmの部  
・記録31分39秒4（当時41歳）

1 k m	約3分10秒	200mトラック1周	約38秒
-------	--------	------------	------

- ③1974年第5回防府読売マラソン（フルマラソン）  
・記録2時間33分32秒（当時45歳）

1 k m	約3分38秒	200mトラック1周	約43.6秒
-------	--------	------------	--------

- 「防府読売マラソン」について

防府読売マラソンは、1970年から例年12月の第三日曜日の正午より開催されている、山口県下でも有数のマラソン大会である。

日程的に、毎年その年の最後に行われる日本陸上競技連盟公認マラソン大会となっており、若手有望選手が多く参加していることから、「若手の登竜門」と呼ばれている。



## 他の取組例

### 田島直人

1932年、ロサンゼルスオリンピックに出場し、走り幅跳びで6位入賞。1936年、ベルリンオリンピックで2度目のオリンピック出場。三段跳びで16m00の世界新記録で金メダル獲得の快挙を成し遂げた。

大阪府に生まれその後、父の郷里である山口県岩国町（現岩国市）に戻り、岩国尋常高等小・旧制岩国中学（岩国高校の前身）に進学。兄・田島元も三段跳びの日本チャンピオンになったことのあるジャンパーで、旧制広島一中時代の織田幹雄と親交があり、岩国中学でよく一緒に練習していた。田島直人は、この兄と織田の影響で三段跳びを始めた。

この功績を讃え、平成16年から本県で「田島直人記念陸上競技大会」が開催されている。走り幅跳びの学習の際に、田島直人の記録と自分の記録と比較させたり、目標設定の参考とさせたりすることができる。

（参考記録）15才の時の県体で、走り幅跳び6m42の新記録で優勝